

あいちの学童保育

2015年3月11日 第17号

愛知学童保育連絡協議会 発行

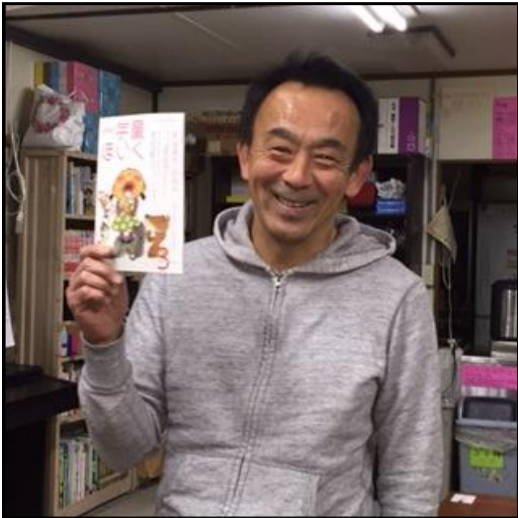


日々、つれづれ

第16回目は、名古屋市中村区風の子学童保育所の指導員後藤毅さんです。

県内の学童保育指導員・保護者にスポットを当てていろんなお話を聞いていきます。

後藤毅(たけし)さん、名古屋市中村区風の子学童保育所の指導員です。風の子は3学区の子ども達58人が生活しています。後藤さんは子ども達に「ゴリ」と呼ばれています。風体からじゃなく、カレーの鍋の底をゴリゴリこそげてたのを見て女の子が名付けたそうです。



後藤さんの指導員としての歩みは、学童保育・指導員の歴史と重なります。

もともとは小学校の先生になろうと思っていました。大学の恩師に勧められて教員採用試験勉強の傍ら、お昼から子どもと遊べば良いんだって軽く考えていました。そうこうしているうちに29年経ってしまいましたね。

当時は月給9万。社会保険も何もなし、9万円ぽっきりでした。

実家の親には「子どもと遊んだり勉強したり、まー塾みたいなものだな」とか適当に言ってたから、親はずっと塾の先生だと思っていたかも。大分だから来ることなかったです。

あの頃は親たちと酒を飲むことが楽しみで、お金ないだろうからと晩ご飯をご馳走してくれたのが一番嬉しかったです。つくり運動の頃の親たちだから、じっくり指導員として育てようという気持ちも強かったんだろうと思います。

法制化(1997年)の時も盛り上がりました。国会要請行動とかもよく行きましたね。夜は大広間で宴会して、仲間のいろんな意見を聴きました。親たちには「法制化されたら本当に良くなるのか?逆にそれが縛りになって大変じゃないのか?」って心配されましたけど、法制化されたときは嬉しかったですね。

ちようどその頃、大都市を中心に全児童対策事業も広がりましたよね。

トワイライトスクールと学童保育、何が違うんだ。みんなよく話し合いました。結局、「ただいま」と「こんにちわ」の違いじゃないかって。「ただいま」の意味も考えたし、本当にそうだと納得しました。いやあ、真面目に仕事しようと思いましたが(笑)

いまの新制度?うーん、よくわからないけど。親にとっても負担かかっているし、苦勞しています。これで、本当に良いのだろうかと考えてしまいますね。

節目、大きな波が来る度に学童保育の意義と役割を自分たちの中で深めていくもの

かもしれないね。

昔の親、子どもと比べて、いまは変わったと感じますか?

変わらないと思います。働きたい親を支えて、子どもの大きくなりたいって願いをかなえて、学童保育の役割は何も変わりません。変わったのは自分です。何も知りませんでした。

悩んでやめていく指導員も多いです。保護者との関係で行き詰まったり、見通しが持てない、自信がない…。

保護者との関係で悩んでいる若い指導員に何かアドバイスはありますか?

自分は今でもたくさん失敗します。間違っているときは相手が、保護者でも子どもでも率直に謝ります。そうやってゆっくりでも関係を築いていくことが大切ではないかと思えます。

すぐ近くで同僚指導員鈴木佳代さんが合の手を入れたり笑ったり。二人はとても仲良しです。

< 掲示用 >

佳代ちゃんとは13年一緒に仕事してるかな？
佳代ちゃんと俺は似てる場所があります。子どもに教えようとかじゃなくて一緒に遊んで、一緒に喜んで、一緒に泣いて。



「佳代ちゃんからもゴリさんについて聞きました。」

「ゴリのこと、きっと子ども達は大好きだと思うんですね。こういう大人と遊びたいと思ってる。子どもの要求もすぐダメって言わずにどうしたら実現できるか一緒に考える大人なんです。」

俺は佳代ちゃんに教えられたことがあります。佳代ちゃんは勤めだした時から「お疲れさまです！」っていつも言ってくれるんです。それを聞いて気持ちがいいと楽になった。あー俺、いつも何とかならないとって気を張ってたのだから、その時わかったんです。

「気をつけて」って送り出されると、ほんとに気がつけるようになりました。

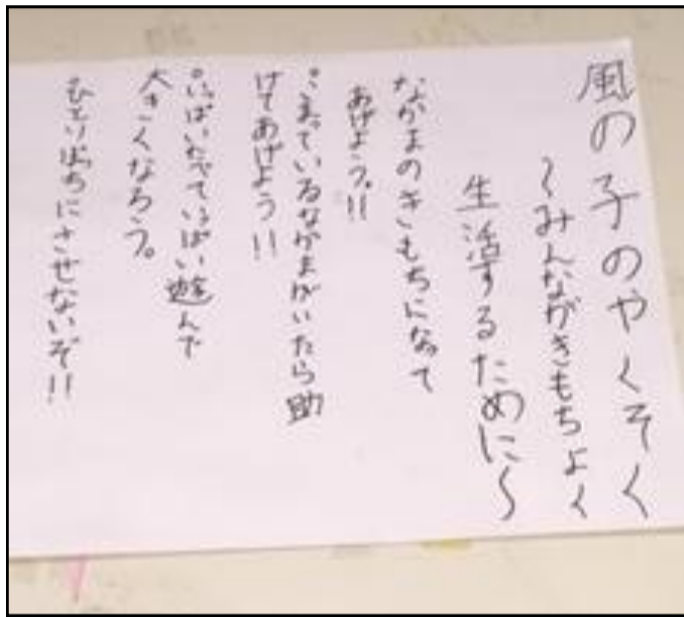
「ねぎらうって大切ですよねえ。」

「学童保育所の壁に子ども達がつくった『風の子のやくそく』みんながきもちよく生活するために」が貼ってあります。

最初はもつと書いてあり、子どもにも「そんな細々書かなくていいよ。窮屈だぞ」って言ったんです。

「横で佳代ちゃんが「前はゴリのことをハゲと呼ばないって約束もあったんですよ」と笑います。」

「なかまのきもちになってあげよう！こまってるななかまがいたら助けてあげよう！いっぱい食べていっぱい遊んで大きくなるう。ひとりぼっちにさせないぞ！」これを読んだとき、不覚にも涙がこぼれそうになりました。とてもシンプルで、大切なこと。子どもだけじゃなく誰しもが必要な仲間への思い。それが風の子学童保育所で大切にされてきたこと、ゴリさんが大切にしてくれたことなのかもしれません。」



6月7日(日)に決定！ 第40回

全国学童保育指導員学校
西日本・三重会場

学童保育は働く保護者の就労とその子どもの発達を保障する事業として、ますます必要性が高まっています。

そこで働く学童保育指導員の仕事の価値も高まっています。学齢期の子どもの保育には、子ども理解、家庭支援、地域との連携など多面的な視点、理論、技能が必要です。

新人には新人の、経験者には経験者の学びがあります。終わりのない仕事だからこそ、学び続けたい！

ところ 三重大学キャンパス

全体講演 河崎道夫さん(高田短期大学)

午後からは18講座に分かれて学び、交流します。

他府県の指導員の仕事ぶりも垣間見え、視野の広がる全国学童保育指導員学校。2015年度西日本会場は、三重で開催します。ぜひご参加ください！保護者や関心のある方もこの機会にぜひご参加ください。



アンジェロ(年2回発行している学童保育のフリーペーパー)の今春号で学童保育についての川柳を募集することになりました。身近な出来事、日ごろの思いを五七五で表してみませんか？

「ねえ見てて やっと乗れたよ 一輪車」

送り先は県連協まで↓